

当院における診療放射線技師の新人教育について

西美濃厚生病院 放射線科 近藤めぐみ

○近藤めぐみ 米田美穂 中村有美 日比英彰
岡田浩幸 三輪正治 今井信輔 安部威彦
野田秀樹 山田正 橋本英久

【はじめに】

現在、診療放射線技師の基礎教育は大学等の教育機関にて行われている。しかし、実際の臨床の現場において一人前の技師として活躍していくには、撮影技術、画像処理、装置の操作および管理、医学知識の応用、患者対応、接遇など学校教育ではできない多くの教育が必要とされます。今回、当院における診療放射線技師の新人教育の現状と新人教育を受けた技師から見た技師教育の在り方について検討したいと思う。

【当院の新人教育の現状】

入職後は当直業務を行えるように一般撮影・CT 検査・頭部 MRI 検査を3ヶ月を目標に覚えていきます。その後、マンモグラフィ・UGI（健診センター）を覚えていきます。マンモグラフィ認定（女性）・UGI 認定（全員）などの認定資格取得を目指します。

また、2～3ヶ月ごとに放射線科にて勉強会を開催しています。初級技師の知識および技術の向上を目的に、先輩技師により各画像検査（CT、MRI、US、RI など）の撮影技術および関連する医学知識、画像読影などの講義が行われています。

【問題点】

- ・各モダリティにおける教育担当者が決まっていない。
- ・新人教育マニュアルがない。
- ・各検査において達成目標が決まっていない。

【まとめ】

当院の新人教育は担当者との手取り足取りの教育により行われているのが現状であるが、担当者が日々変わることが問題であることが見えてきた。

しかし、当院のような中核病院においては全員があらゆる検査を行えるように検査担当をローテーションせざるをえない為、新人技師教育のマニュアル作成などを行い新人教育の一貫性を図るとともに技師教育の向上を目指したいと思います。